

『ロボット支援下肺葉切除における fissureless lobectomyの有用性』 に関するご協力をお願い

研究の目的と意義	<p>早期肺癌に対する手術において、葉間から肺動脈へアプローチする「肺葉切除術」が標準術式として知られていますが、術後肺瘻など様々な合併症が報告されています。これを予防するために、葉間から肺動脈へのアプローチを行わずに葉切除を行う「fissureless lobectomy」という方法があります。通常、葉間切離⇒肺動脈切離⇒気管支切離という手順を踏む葉切除に対して、fissureless lobectomyでは気管支切離⇒肺動脈切離⇒葉間切離という手順となり、葉間を最後に自動縫合器を用いて切離することで肺瘻を予防しています。</p> <p>本研究では、当院において早期肺癌に対してロボット支援下肺葉切除術を受けた患者さんを対象として後ろ向きに調査し、fissureless lobectomyと通常の葉切除で、合併症を中心とした周術期成績を調査・解析することで、fissureless lobectomyの有用性を明らかにすることを目的としています。</p>
研究の方法	<p>当院で西暦 2020年1月1日～西暦 2024年12月31日の間に、早期肺癌に対してロボット支援下肺葉切除術を受けた患者さんを対象とした後ろ向き研究です。</p> <p>診療録および既存データベースから患者背景、手術関連情報、CT画像データについて収集し、分葉度や術後肺瘻などから合併症を中心とした周術期成績の調査、解析を行います。</p> <p>統計解析には fissureless lobectomyを受けた群とそれ以外の群でt検定やノンパラメトリック検定を用いて解析を行います。</p>
対象者	西暦 2020年1月1日～西暦 2024年12月31日の間に、ロボット支援下肺葉切除を受けた Stage0または StageI期の肺癌の患者さん
利用する試料/情報	研究対象者背景：識別コード(各研究対象者に割付けた固有の識別番号)、性別、年齢、身長、体重、合併症、既往歴、喫煙歴、前治療 等 全身状態：Performance Status (PS) CT所見：分葉の程度、腫瘍の大きさ 副次評価項目：分葉の程度、手術時間、出血量、その他の合併症 等
利用する試料/情報の取得方法	既存データベースから得られた診療録 等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	研究結果の一部は、英文論文などでの発表を予定しています。公表する際には、研究対象者を識別することができないよう個人情報の保護に最大限配慮します。

研究参加拒否・同意 撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦 2027年3月15日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。 ただし、お申し出が研究結果公表後の場合は、撤回する事が実質上難しい場合があります。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 呼吸器外科 / 医長 / 村岡 祐二
問い合わせ先	〒230-8765 横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話 045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 呼吸器外科 / 村岡 祐二